

令和5年 8月の思いやり通信



太陽光発電 2割 災害恐れ

土砂崩れ 危険な区域に 1600 設備 防災管理欠かせず

* 全国の太陽光発電設備（500キロワット以上）の2割が土砂災害リスクの高いエリアに。

* 土砂災害（特別）警戒区域、土砂災害危険箇所、急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域のいずれかに、全体の18%にあたる1658箇所が立地しています。

* 太陽光発電設備は森林伐採による保水力の低下に加え、パネルからの雨滴などにより地表面が侵食され、法面の安定性が損なわれる恐れがあります。

* 1時間降水量が100mm以上の豪雨は年4.4回（10年平均）と、1980年代に比べ5割増。

* 太陽光発電設備の導入量は、2022年時点で7883万キロワットと2012年比約12倍に。

（2023年7月19日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

